

<人権カレンダー> (11月~3月)

◆11月 (児童虐待防止推進月間)

「虐待かなと思ったら迷わず通報」→短縮189

大阪府富田林子ども家庭センター
(相談は0721-25-1131)
通報窓口: 0721-25-2263
(夜間072-295-8737)

- 20日 世界の子どもの日
- 12~25日 女性に対する暴力をなくす運動週間
- 25日 女性に対する暴力撤廃国際日
- 25~12月1日 犯罪被害者週間



◆12月

- 1日 世界エイズ・デー
- 1~7日 「いのちの電話」フリーダイヤル週間
→ 0120-783-556
- 3日 国際障がい者デー
- 3~9日 障がい者週間
- 4~10日 人権週間
- 10日 人権デー
- 10~16日 北朝鮮人権侵害問題啓発週間



◆1月

- 15~21日 防災とボランティア週間

◆3月 (自殺対策強化月間)

- 8日 国際女性デー
- 21日 国際人種差別撤廃デー・世界ダウン症の日



<編集後記>

コロナ禍の中、ワクチン接種が進んでおります。感染を心配するあまり「コロナハラスメント」と呼ばれる過剰な要求や差別が顕在化しています。早く終息して、人にやさしい世の中になって欲しいものです。

<「シトラスリボンプロジェクトについて」>



シトラスリボンプロジェクトとは、コロナ禍で生まれた偏見、差別をなくし、誰もが地域の中で笑顔のある暮らしを取り戻せる社会にしようと、愛媛県の有志によって始められたのがシトラスリボンプロジェクトです。

シトラス色のリボンやロゴを身に着けて、一人ひとりがそれぞれの暮らしの中で「ただいま」「おかえり」と温かく受け容れる気持ちを表し、感染された人が地域に帰ってきたときは、普段どおりの暮らしが送れるような、思いやりとぬくもりのある地域づくりを進める運動です。

リボンの3つの輪は「地域」「家庭」「職場(学校)」を意味しており、愛媛特産の柑橘にちなみシトラス色をイメージカラーにしています。

河内長野市においても、新型コロナウイルスの感染者が発生しています。感染が確認された方には、一日も早い回復をお祈りいたします。そして、コロナ禍のもとで医療や介護や物流など、私たちの暮らしを支えてくださっている皆さんの頑張りやエールを送りましょう。

河内長野市と河内長野市人権協会は、シトラスリボンプロジェクトに賛同しています。

もしも、コロナ差別を受けた場合は、一人で悩まず、気軽にご相談ください。

河内長野市人権協会では、

- ①人権あれこれ相談
- ②総合福祉相談
- ③進路選択支援相談



を市役所5階で、秘密厳守にて承っています。事前に電話予約の上お越しください。

(53-1111 内線575・577)

発行・編集: 河内長野市人権協会

〒586-8501 大阪府河内長野市原町1-1-1

(河内長野市役所5階 人権推進課内)

電話 0721-53-1111 (内線575・577) FAX 53-1955

<http://www.kawachinagano-iinken.join-us>



人権協会だより

河内長野市人権協会

思いやりとぬくもりのある人権尊重のまちづくり vol. 17
-2021.11.1-

令和3年度啓発活動重点目標

「誰か」のこと じゃない。

啓発活動重点目標の趣旨:

東京2020オリンピックでは、女性蔑視や障がい者へのいじめ問題など多くの人権問題が噴出しました。まずは、互いの違いを認め合い、相手の気持ちを考え、思いやることのできる心を育むことが大切です。人権問題を誰かの問題ではなく、自分の問題として捉え、人権を尊重することの大切さについて、理解と参画を得ながら考えていただけるよう、啓発活動を展開します。

<令和3年度(下期) イベント他 事業活動予定 >

■「人権を考える市民の集い」

- 日時: 11月27日(土) 13:30~(13:00開場)
- 場所: ラブリーホール(小ホール)
- 内容: 講演「笑いの世界の平等性」 講師: 桂 勢朝さん(桂米朝弟子、伊勢市出身)



■市民サロン(市役所1階) 展示

- 期間: 11月1日~12月17日
- 内容: 人権啓発展示「シトラスリボンプロジェクトの紹介」「人権三法」「SDGsとは」等

■「安全安心のまちづくり市民大会」 ・11月下旬 → 中止

■「こども人権啓発ポスター展」

- 期間: 12月3日(金)~12月4日(土) ・場所: キックス大会議室
- 内容: 市内小中学生から募集した「人権啓発ポスター」約450点の展示や、新型コロナウイルス関連の差別や人権問題などのパネル展示



写真は昨年度キックスにて

■人権週間(12月4日~12月10日)

- 市内主要駅前に啓発横断幕を設置する他、市公用車にステッカー貼付予定。

■「共に生きるまちづくりをめざして」

- 日時: 令和4年1月22日(土) 13:00~ ・場所: キックス(イベントホール)
- 映画: 「こんな夜更けにバナナかよ」 愛しき実話(大泉洋、三浦春馬、高畑充希)



■指導者研修

- 日程: 令和4年2月~3月頃計画中

■生活情報展

写真は平成30年度「茨木市立キリシタン遺物資料館」にて→

- 日程: 令和4年3月4~5日(金~土)
- 場所: ノバティホール(コロナ差別関連情報などを展示予定)



■南河内人権啓発推進大会

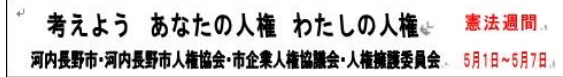
- 日程: 令和4年3月頃計画中 ・場所: 富田林市内(選定中)

※なお、ここに記載の各予定は、予告なく中止や変更になる場合があります。

<令和3年度（上期） 事業実施状況>

■憲法週間啓発活動（4月28日～5月10日）

- ・河内長野・三日市町両駅前ロータリーに啓発横断幕を設置



- ・市の公用車にマグネットステッカーを貼付

■市民まつり（5月9日）→ 中止

■令和3年度総会（5月26日）



山本忠行相談役

令和3年度の総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面決議（会員総数 220 名）を実施し、全議案につき、返信者全員の賛成（144 票）を得て可決承認されました。なお、会長として河内長野市人権協会を 10 年間に渡り牽引して頂いた山本忠行会長はこのたび退任され、今後は相談役としてご指導頂きます。新任会長には、安達英行副会長が就任されました。



安達英行会長

■図書館1階ショウケース展示（7月5日～8月1日）

「オリンピック・パラリンピックの歴史と平和・人權」、「オリ・パラ雑学クイズ（平和と人權に関して）」のテーマと「シトラスリボンプロジェクト」のポスター展示を実施しました。



■市民サロン展示（7月1日～8月16日）

「シトラスリボンプロジェクト」の紹介、「STOP!コロナ差別」「コロナ差別を許さないまち宣言」安田菜津紀さん写真展「世界で出会った子どもたち」、「SDG sとは」「拉致問題」「優生保護法問題」「人權三法」等の展示を行いました。



展示（全体）



STOP! コロナ差別



写真展「世界で出会った子どもたち」

■「愛・いのち・平和展」（7月23～24日）→ 中止 ■子ども平和施設見学会（8月18日）→ 中止

■「シトラスリボン」プロジェクト（7月1日～）

キックス玄関や市役所の市民サロンでの展示、また広報やホームページを通じて、シトラスリボンプロジェクトの活動を紹介。シトラスリボンバッジの配布も実施し、多くの市民の方々にご協力頂きました。



シトラスリボンプロジェクトの紹介



ピンバッジ配布中



シトラスリボンピンバッジ

■共に生きるまちづくりをめざして 講演会（9月26日）→ 中止

<人権問題トピックス その1>

■東京 2020

新型コロナウイルスの変異株が猛威を振るい「開催中止」の世論が高まる中で、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。「多様性と調和」を掲げる大会でしたが、むしろ「勝利至上主義」や「ナショナリズム」、「商業主義」がより一層強く感じられる大会になったとの声が多く聞かれました。

メダルラッシュに沸いた一方で、不本意にもメダルを逃した選手たちは、自ら「ごめんなさい」と言わされてしまう、メディアや社会のあり方に疑問を感じる場面も多くありました。

■オリンピック・パラリンピックと人権問題

東京 2020 オリンピック・パラリンピックは、さまざまな人権問題が問われる大会となりました。

良かった点の一つは、大会史上初めて「トランスジェンダー」を公表したニュージーランドのローレル・ハバード選手（元男性）が本人が自認する性別（女性）として大会に出場するという画期的な大会になったことです。今回は残念ながら記録なしの結果でメダルに届きませんでした。参加できた喜びははかり知れません。また過去最多の 180 名を超える LGBTQ を公表する選手が参加しました。さらに開会式では、テニスの全米オープン時に「ブラックライブズマター」をアピールして世界から賞賛された大坂なおみ選手が、聖火の最終ランナーを務め注目を集めました。



ローレル選手（写真:reuters）

時を戻して、1968年のメキシコ大会を振り返ってみると、授賞式で黒人差別に抗議する「ブラックパワー」を主張した2名のメダリストは、政治的パフォーマンスを行ったとして、アメリカ代表チームから除名され、その後も多くの非難を受けました。この当時は、オリンピック憲章で、このような主張をすることが禁じられていたからです。今大会では、その規律が少し緩和されました。例えば女性サッカーでは、イギリス代表チームによる試合開始前に人種差別への抗議を示す「片方の膝を地面につける行為」に各国のサッカー選手がならいました。日本チームも、人種差別を考えるきっかけにしたいとして、これを実施しました。



一方で、主催者の日本が抱えるさまざまな人権問題がクローズアップされました。元東京五輪組織委員会会長の森氏による女性蔑視発言に端を発し、開閉会式の演出の総合統括役だった佐々木氏が、タレントの容姿を侮辱するアイデアを提案していたことが表面化し辞任。さらに、開会式の音楽責任者の小山田氏が過去の障がい者に対するいじめを指摘され辞任。また、演出担当の小林氏が、過去に「ユダヤ人大量虐殺（ホロコースト）」をネタにしていたとして解任されるなど、主催者側の人権意識の希薄さが問題になりました。

今後はオリンピック・パラリンピックが、単なる商業イベントではなく、本来の役割である世界に対して平和や人権尊重のメッセージを、さらに発することができる大会になることを祈りたいと思います。

<特殊詐欺関係情報>=その8=

令和3年

河内長野市でも還付金詐欺の電話が急増中！

河内長野市警察（防災行政無線放送）からの情報によれば、河内長野市内でも市役所の職員をかたった還付金詐欺の電話が急増しています。ATM機を操作してもお金はもどってきません。

関西人は、オレオレ詐欺には引っ掛かりにくいですが、還付金詐欺には弱いと言われています。詐欺の被害にあわないように注意しましょう。



◎「おかしいな」と感じたら、その場で対応せず（電話の場合はいったん電話を切って）家族や警察に相談してください。 下記相談窓口でも気軽に相談できます（平日 10 時～16 時）。

河内長野市消費生活センター（ノパティながの南館3階） **0721-56-0700**